

# 鳥取大学における学部改組の概要

鳥取大学は、以下のとおり平成29年4月に地域学部及び農学部の改組を予定しています。  
なお、この計画は、文部科学省大学設置・学校法人審議会の審査結果(平成28年8月下旬)によって  
確定するものであり、変更があり得ます。

## 改組の背景

人口減少と地方から都市部への人口集中が我が国の深刻な課題として認識され、地方創生に関する人材の育成がますます重要になるとともに、グローバル化に対応できる能力も求められてきている。このような社会的要請に応え、地(知)の拠点大学として、鳥取大学の地方創生に関する大学の教育力を総合的に強化するための改組を行う。

地域学部では、これまで政策、教育、文化、環境の4つの視点から実践的なフィールド活動を重視して、地域とそこに生活する人々の関わりを探求し、地域のキーパーソンを育てる教育を行ってきた。この実績を継承しつつ、近年の社会的要請に応えるため、複合的な課題に対応できる地域づくりの能力と実践力を身に付けた人材の育成をさらに充実・強化していく。そのために従来の学科を人文・社会系に特化した1学科に統合して、地域ビジネスの活性化、文化なども視野に入れた地域づくり、国際化などへの対応力を強化し、分野融合的でかつ社会や学生のニーズに応じて学べる教育体制にする。

農学部では、豊富な遺伝資源を使った有用生物資源の開発や有効活用、地域農業に寄与する生物生産、乾燥地農業などを中心とした教育を行ってきた。地方への人口定着のために地域における農業の振興はますます重要性を増しており、生産性の向上、6次産業化、グローバル化など、農業の高度化を進める必要がある。また基盤整備の面から、農業生産の場であり生活の場である里地里山など地域環境の保全も進める必要がある。そこで、これまでの教育に、地域における環境保全の分野を加えることで、農林生産環境を総合的に扱うことができるようになり、地域の農林業と環境問題に関連する教育を強化する。

# 改組による分野の移動と募集定員

改組前（平成 28 年度までの入学生）

<地域学部> 文系 3 学科 146 名

地域政策学科	49 名
地域教育学科	49 名
地域文化学科 (芸術文化コース)	48 名
地域環境学科	44 名

<農学部>

生物資源環境学科	200 名
----------	-------

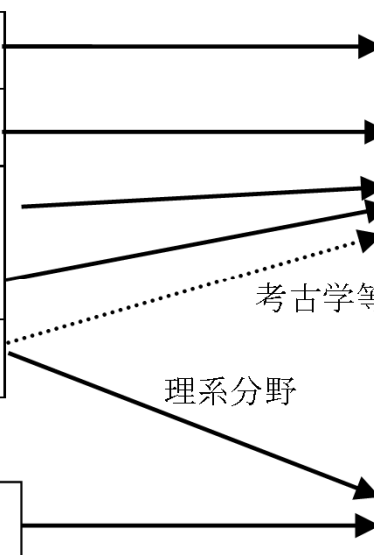
改組後（平成 29 年度入学生）

<地域学部 地域学科> 170 名

地域創造コース	60 名
人間形成コース	55 名
国際地域文化コース	55 名

<農学部>

生命環境農学科	220 名
---------	-------



考古学等の分野

理系分野

※ 入試はコース別を実施します。

# 地域学部の改組について

## 地域学部・地域学科コンセプト

生活の質の向上とその基盤である地域の持続可能な発展を目指して、次の能力を備えた人材を育成する。

1. 地域をつくりあげている諸要素や人々のつながりから生まれた地域特性と地域が抱える諸問題、公共的課題を的確に捉えるために必要な知識と高度な思考力
2. これらの課題を探求し解決するために必要な知識と能力及び課題解決に参画する社会的実践力

そのために以下の教育研究を展開する。まず、地域の暮らしを枠づけている自然と人間の関係、人の発想や行動の源泉となっている文化、近現代の価値観と諸制度、グローバルな動きなどについて学ぶ。そのうえで、現在、地域とそこに生起している諸問題を体系的に把握するための教育研究、地域の持続的発展について具体的に構想して実践的に取り組む教育研究、ならびに地域を支える人間形成に関わる教育研究を進める。これらの教育研究と相互の学際的融合、さらに地域と協働した教育によって、理論と実践の融合した複合的な能力と、主体的・自律的・継続的に地域課題解決に向けて学び続ける意欲・生涯学習力を身に付けた人材の養成強化を図る。

現在、ライフスタイルが多様化する中で、こうした地域のキーパーソンに向けて学生が将来ビジョンを構想し、キャリアデザインを描ききっかけは、キャンパス内での講義や演習等での知識獲得、議論による刺激等とともに、地域づくりの現場や学校、海外での異文化との交流等における実践的な活動や実践者に接することからも得られることも少なくない。地域学部の上のような理論と地域協働実践を含む教育はそうした機会を提供することにもなる。そして、このような学生の自己実現のためのキャリアデザインはまた、地域における新たなコミュニティデザインと重なることともなるのである。

## 地域学部・地域学科の養成人材像

地域の公共的課題の探究に関わる自然・社会・文化に関する幅広い知識を修得し、また実践的アプローチを通じて地域に生起する様々な諸問題を的確に捉える深い探求心と、その解決のための論理的思考力、批判的判断力、創造的表現力や他者とのコミュニケーション力等を身に付け、地域社会の再生・発展に高い倫理観と責任感をもって貢献できる人材を養成する。下記の3コースと学修を明確化するためのプログラムをおく。

### 地域創造コース

地域の現在及び将来の課題に対し、積極的かつ主体的に取り組んで将来の姿を構想し、行政だけでなく多様な主体で、政策に加えもっと広いアプローチにより、地域創造に資するキーパーソンとなりうる人材を養成する。

### 人間形成コース

人間形成に関わる諸理論と実践を学び、学校教育のみならず、生涯にわたる人間形成(生涯発達)の立場から、地域と学校の関係を再構築し、地域の人づくりを支えるキーパーソンを養成する。小学校・幼稚園・特別支援学校教諭免許と保育士資格の取得が可能。

### 国際地域文化コース

様々な文化の関係性とそれが生活においてもつ意味を理解して、日本を含む世界の様々な地域で、異質なものを相互に認め合いながら、「一人ひとりの生活と生の充実」、「つながりの創出」を実現するために必要な知識や技法、言語能力や現地感覚・現場感覚を身に付けた人材を養成する。

### 地域創造コース

- ・コミュニティマネジメントプログラム
- ・ソーシャルビジネスプログラム
- ・政策科学プログラム

### 人間形成コース

- ・発達福祉プログラム
- ・学習デザインプログラム
- ・地域と教育プログラム

### 学部コアカリキュラム

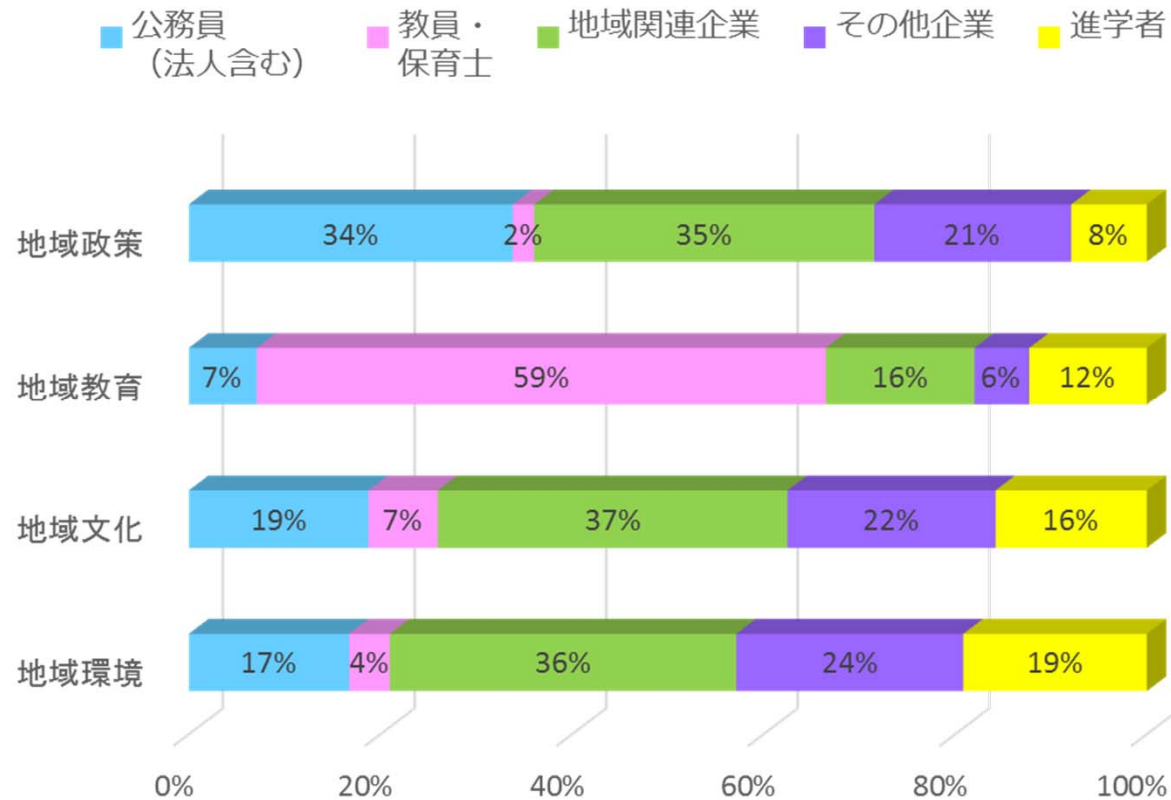
地域学系科目  
実践科目  
学部基礎科目

### 国際地域文化コース

- ・日本の歴史と文化プログラム
- ・グローバルな文化と地域プログラム
- ・創造性とコミュニティプログラム

# これまでの地域学部の進路実績

## 卒業生進路状況の動向（H19年度～H26年度の卒業生）



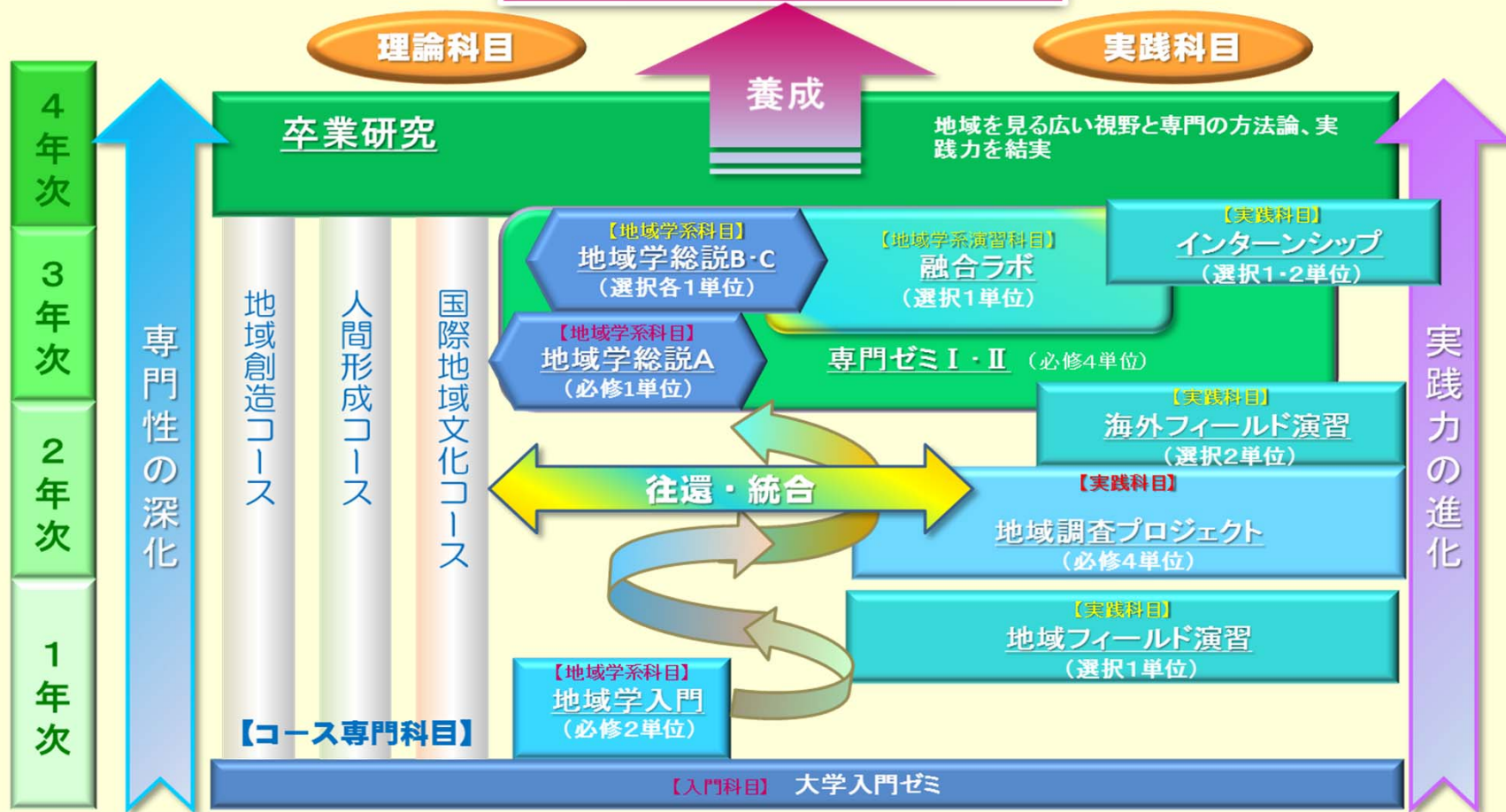
### 地域関連産業の産業分類

建設業、電気・ガスなど、運輸業、卸売・小売業、金融・保険業、不動産業  
飲食店・宿泊業、生活関連サービス業、医療・福祉業、教育・学習支援業(塾等)

# 地域学部の教育課程概要

「理論」と「実践」の相互往還カリキュラム編成

地域の持続可能な発展を担うことのできるキーパーソン



# 学部共通の主要科目

## ■「地域学入門」(1年次, 必修, 2単位)

地域学の特徴や、個別の専門分野と地域学との関係をつかみ、地域研究や地域づくりの実践例を学ぶことにより、地域学の基礎力を養う。

## ■「地域フィールド演習」(1年次, 選択, 1単位) → 新設

地域の特性や課題、地域づくりの実践例を現場において学び、地域の特性や魅力、地域課題とその解決への関心やアプローチする意欲の促進をはかる。

## ■「地域調査プロジェクト」(2年次, 必修, 4単位) ← 地域調査実習(2単位)

地域の特性と課題を把握し、地域特性を踏まえて多様な地域課題の解決を目指し、調査の方法、課題解決へのアプローチやプレゼンテーション、報告書作成などの基本的な技能を実践的に修得する。

## ■「地域学総説A, B, C」(3年次, Aは必修, B・Cは選択, 各1単位) → 充実

- ・地域学総説A: 2年次までの学修成果を踏まえ、公共的な諸問題を「地域」という枠組みで捉え、学際的に研究するための考え方を確立し、専門分野と地域学との関係をさらに深く考え修得させる。地域のキーパーソンとして自らのキャリアデザインと地域のコミュニティデザインの重ね合わせについても考えさせる。
- ・地域学総説B・C: 個別のテーマで、実践的あるいは専門テーマと関連する内容で、地域学の視点を学ばせる。

## ■「専門ゼミⅠ, Ⅱ」(3年次, 必修, 各2単位)

2年次までの理論的な学習と実践的な学習を融合し、自らのテーマを設定・探求し卒業研究に展開するための専門的なゼミ。

## ■「融合ラボ」(3年次, 選択, 1単位) → 新設

専門間にまたがる合同ゼミや実践的な企画を実施し、関連分野への理解と実践力を深める。  
(コース, プログラムを越えて、共通課題について学際的視点から議論を行ったり、調査・研究あるいは社会的実践を企画する合同ゼミなど)

## ■「卒業研究」(4年次, 必修, 8単位)

地域課題解決のための広い視野と専門の知識・方法論、実践力を結実させる。卒業論文を課す。

## ■他に、グローバルに地域の視点を展開する「海外フィールド演習」、地域づくりに関係するものを含む「インターンシップ」などをテーマに応じて修得する。